

# 第4学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 居蔵 節子

## 1. 題材名 リズムにのって A表現(2)立体

### 2. 題材設定の理由

- 本学級の子ども達は、図画工作科の学習に意欲的に取り組み、楽しみながら活動している。第3学年の題材「にぎって、ひねって、ひらめいて」では、土粘土の感触を味わいながら、手で捻ったり穴を開けたり伸ばしたりなど、いろいろな操作をして見つけた形から表したいものを思い付いてつくる活動を楽しんでいる。第4学年の1学期には、題材「新種の生物、誕生！」で、紙バンドを使って、「新種の生物」を立体的につくった。紙バンドを輪にして組み合わせたり、つないだり、切ったり、ねじったり、裂いたりと材料を操作しながら、発想や構想を広げ、自分のイメージをふくらませて思いついた「新種の生物」をつくる活動を楽しんだ。飾った作品を見合って、友達の作品のよいところを認め合うなどの鑑賞の態度も育ってきた。しかし、何をどのように表したらよいのか分からないという思いから進んで活動できない子どももいる。このような実態から、ダンスを踊っている場面の映像を見たり、実際にダンスをしてみたりして、表したいイメージを膨らませて、土粘土の可塑性を生かし、試行錯誤しながら自分らしい表し方を追求できるようにしたい。
- 本題材は、土粘土の可塑性を楽しみながら、土粘土の塊から生き生きとしたダンスの動きや生き物の楽しい表情を想像力豊かに表現する活動を通して、造形的なものの見方や考え方を養うことをねらいとしている。本題材においては、「ものの動き(ムーブメント)」に焦点を当てて立体的に表現する展開を図りたい。この題材での活動を通して、これまで、経験してきた粘土のいろいろな表現方法を選んだり、組み合わせたり、新しい方法を考え出したりしながら表現することを通して、想像の世界を実現する面白さを十分に味わわせることができると考える。

### 3. 指導上の着眼

#### 【着眼1】子どもの活動意欲を喚起する題材設定の工夫

子どもが学習全体を通して、意欲的に活動するように、土粘土を主材料として「リズムにのる」という言葉を発想源とした立体表現の活動を設定する。土粘土は、独特の手触りの心地よさがあり、簡単な操作で形をいくらかでも変えられる高い可塑性をもつ材料である。子どもたちにとっては、馴染みがあり、とても好きな材料である。「リズムにのる」というキーワードは、単純さや平面的なイメージを乗り越え、擬人化した動物を表すだけでなく、体をひねる、手足を曲げ伸ばしするなどの自由な発想を広げ動きのある形を表そうする思いを引き出す言葉である。「ものの動き(ムーブメント)」を意識した立体的な表現に意欲的に取り組むことができるように、補助材料として、土粘土の内部に入れる芯材となる針金や割り箸も用意する。

#### 【着眼2】子どもが造形的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

子どもが自分なりの造形的な見方・考え方を働かせて活動することができるように、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から以下のように学習活動を工夫する。

- 本題材の導入時に、子どもが動きのある形を表そうとする思いを広げたり、表そうとするものの具体的なイメージをもったりすることができるように、動物達が楽しそうにダンスをしている映像を鑑賞する場をもつ。  
＜「主体的な学び」「対話的な学び」の視点＞

- 子どもがお互いの活動を見合い、自由に対話しながら、自分なりの造形表現ができるように小集団グループでの活動の場を設定する。 <「対話的な学び」の視点>
- 子どもが「リズムにのった動き」を追求しながら、自分の納得いく造形表現ができるように、土粘土の補助材として芯材となる針金や割り箸を用意し、その効果的な活用の仕方を学び合う場をもつ。 <「対話的な学び」「深い学び」の視点>
- 子どもが作品をつくり上げた満足感や自他の作品のよさを味わうことができるように、「つついわくわくギャラリー」を作品展示の場とし、鑑賞会を設ける。 <「主体的な学び」「対話的な学び」の視点>

### 【着眼3】学習評価の工夫

子どもが自分の活動を振り返り、自己評価をすることができるように、ワークシートをもとにした振り返り活動を行う。教師は、その記述をもとに、次時に向けた個別の指導計画を立てる。

#### 4. 特別な教育的支援を要する子どもに対する指導上の工夫・手だて

**別紙参照** ※ 別紙については、協議会后 回収します。

#### 5. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 土粘土の可塑性を楽しみながら、立体としてつくることに関心をもとうとする。
発想や構想の能力	○ 生き生きとしたダンスの動きや生き物の楽しい表情など、想像力を働かせて表したいことを思い付くことができる。
創造的な技能	○ 土粘土の性質を十分に活用し、動きのあるポーズや楽しい表情を工夫して表すことができる。
鑑賞の能力	○ みんなの作品を集めることで、お互いの表し方や工夫のおもしろさを味わうことができる。

#### 6. 指導計画と評価計画（総時数3時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
であ う・ み つ け る	1. いろいろな動物がリズムにのってダンスをするところを想像する。(0.5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ イメージをふくらませながら活動できるように、導入時に動物達が楽しそうにダンスをしている映像を鑑賞する。</li> <li>○ 子どもが本題材への関心をもつことができるように、音楽を聴いたり、参考となる写真を提示したりする。</li> <li>○ 具体的につくりたいものをイメージすることができるように、実際に体を動かして踊ったり、ポーズをとったり友達の動きを見たりする時間を設ける。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【関】粘土の可塑性や感触を楽しみながら、立体をつくろうとしている。(活動・発言)</p> </div>

み つ け る ・ あ ら わ す          あ じ わ う	<p>2. リズムにのって楽しそうに踊っている動物をつくる。 (0.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体全体を使ってこね、つくりたい動物をつかみ出すような感じで作っていくことができるように、粘土の塊を約2kgを一人一人に与える。</li> <li>○ 粘土の手触りを十分に味わいながら粘土のかたまりからをつまみ出したり、ひき出したりすることができるように、教師が実演する。</li> <li>○ 抵抗なく表現活動に取り組むことができるように、今までの土粘土の学習で経験している表現の技を図や写真で掲示し、紹介する。</li> </ul>	<p>【発】粘土のかたまりから、生き生きとしたダンスの動きや生き物の楽しい表情などを想像している。(活動)</p>
	<p>3. リズムにのっている動物の様子が伝わってくるポーズをもっと工夫する。 (1) ＜本時2/3＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よりいっそうリズムにのっている感じを表そうという思いをもつことができるように、芯材が入っているものと芯材の入っていないものの2種類のモデルを提示する。</li> <li>○ つくりたいもののイメージがよりはっきりするように、いろいろな動きを自分で試したり、友達にポーズをとってもらったりして作品づくりに生かすように伝える。</li> </ul>	<p>【創】粘土の特徴を生かし、動きのあるポーズを工夫して表している。 (活動, 作品)</p>
	<p>4. リズムにのっている動物の様子が伝わってくる表情や細部をもっと工夫する。 (0.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表情や細部にも注意をはらって、作品を仕上げていくことができるように竹ぐし、つまようじなどを必要に応じて使えるように準備しておく。</li> </ul>	<p>【創】粘土の特徴を生かし、動きのあるポーズや楽しい表情を工夫して表している。 (活動, 作品)</p>
	<p>5. 友達や自分の作品のよさを見付け、工夫したところを話し合う。 (0.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ どんな飾り方をしたら、動物たちが楽しくダンスをしている感じが伝わるか工夫することを伝える。</li> <li>○ 友達の作品のよさや工夫を味わうことができるように、カードに書いて伝え合う。</li> </ul>	<p>【鑑】互いのよさを認め合い、お互いの工夫やおもしろさを味わうことができる。 (発表・鑑賞カード)</p>

7. 本時の学習 平成29年9月29日(金) 第5校時 図工室

(1) 主眼

ダンスをしている動物の楽しい動きを、芯材を活用するなどして土粘土で表現する活動を通して、自分のイメージに合う大きな動きのある立体的な造形物をつくることができるようにする。

(2) 準備

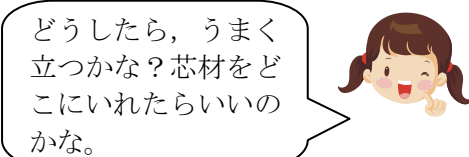
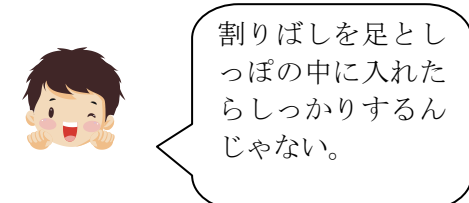
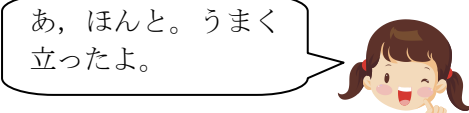
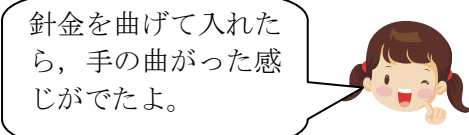
① 教師 土粘土, 粘土版, 粘土べら, 割り箸, 針金,

② 子ども 手拭用タオル, ビニル袋

(3) 本時でめざす子ども像

土粘土の特徴を生かし, 芯材を活用するなどしながら自分のイメージするリズムにのった楽しい動きになるように友達と対話しつつ自分なりの表現活動を楽しみ工夫しようとする子ども

(4) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導上の留意点 【観点】評価規準 (評価方法) ★ 特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援のポイント
1. 本時のめあてを確かめる。	◎ よりいっそうリズムにのった動きを表そうという思いをもつことができるように, 芯材を使ったものと芯材を使っていないものの2種類のモデルを提示し, それぞれのよさを吟味する場をもつ。 ○ 作品を解体し, 芯材を入れる様子を教師が, 実演してみせる。 ○ 早く活動したいという思いに応じるように, 導入での活動は, できるだけ短い時間で端的に行う。 ★ 1時間の学習スケジュールを黒板に提示して, 見通しがもてるようにしておく。
<b>めあて      もっとリズムにのった感じを表そう。</b>	
2. リズムにのっている動物のイメージをふくらませ工夫してつくる。     	○ 動物全体の動きに注目し, 多方面から見てつくるように伝える。 ○ 芯材となる針金や割り箸を切って使うとき, けがのないように, ペンチの扱い方や切り口の処理の仕方を伝え, 提示する。 ○ 土粘土で動きを出すために, 曲げる, ねじる, 丸める, ほじくる, ひねりだす, 付けたすなどいろいろな方法があることを提示し, 子どもの表現のヒントにする。 ○ 子どもの活動がより意欲的になるように, 教師は, 子どもの活動に対して共感的な声かけをする。 ★ イメージをふくらませながら活動できるように, 動物がダンスをしている写真を準備しておき, 参考にできるようにしておく。 ○ つくりたい動きが定まらない, 動きをうまく形に表せない子どもには, 教師がその子どもの思いを汲み取りながら対話し, アドバイスをする。 【創】 思いや発想を広げ, 動きのあるポーズを工夫して表したい形になるまでつくっている。(行動観察, 作品)



わあ、ほんと楽しそうにおどってるね。

毛の感じをだしたいんだけど……。



3. 表した作品をもとに学習の振り返りをする。

○ 鑑賞しながら本時の活動に対する充実感をもち、次時への見通しをもつことができるように、グループで感想交流をする場をもつ。